

総務文教常任委員会道内行政視察報告

平成29年10月10日～12日 東川町、沼田町、岩見沢市

○参加者

山内委員長・小林副委員長・篠原委員・高橋委員・鹿中委員

ひがしかわ独自の教育・ふるさと納税について 東川町

「生きる力の教育」を目標に掲げ、「学力の向上・ふるさと教育の推進・国際教育の推進」の3テーマのもと教育推進をしている。平成29年度の目標が、「日本一の子育て・教育の町づくり」としており、特徴的なものは「町立の日本語学校の開設」で、これは日本で初めての取り組みとなる。

幼児センター「ももんがの家」を運営展開。町教育委員会が所轄し、かかる膨大なランニングコストも必要経費と完全に割り切り、お迎えの名前を拡声器で呼ぶほどの広い敷地に59人の職員を確保し、さらなる子どもたちの獲得にも力を入れていた。



収穫体験（田んぼの学校）

また、果樹園や畑、田んぼなど、収穫時期は体験ができ、給食で食べられるなど食育も

充実し、地域一体となった教育制度の成果なのか、学力も大幅に上昇し、ますます子育て世代が移り住みたいと思えると感じた。

「写真の町」の東川町ふるさと納税は、ふるさと納税の制度化と共に、東川町を応援してくれる人とのつながりを大切に、「寄付」を「投資」、「寄付者」を「株主」として、株主と共に町の未来を育てていくものとなっている。

複合商業施設（まちなかホッとタウン）について 沼田町

町内唯一の大型スーパーが閉店し、住民が集えるコミュニティ空間がなく、「町が進んでいるコンパクト構想」、「歩いて暮らせるまちづくり」の実現の中から議論検討された結果、「複合商業施設」が建設された。複合施設建設の背景には、何年もかけてワークショップを30回以上行い、ヒアリング、住民とのキャッチボールを大切にしたこととあり、人口3千人台の町として、コンパクトな町づくりの成功例として非常に参考になった。点在する集落の多い津



Da*マルシェの外観

別町では住み慣れた土地から離れられない方へのフォローもしつかりと行っていく必要があると感じた。

複合文化施設（来夢21）について 岩見沢市

旧栗沢町時代に寄贈された開拓時代からの作業器具等を展示する資料館、教育文化センター内にあった図書館の整備、児童館の建設が望まれていたことから、「創造豊かな教育・文化のまちづくり」として、資料館・図書館・児童館の建設を促進することとなった。



来夢21外観

旧栗沢町時代に住民のニ

ズに定める形で施設を建設し、資料館自体には人員を配置せず、必要に応じて図書館職員が対応するなど、適材適所の配置により、ランニングコストも抑えられている。

こども館は、現在は3年生までの受入れで69人が登録し、現在4年生以上の受け入れも推進している。学習スペース・運動スペース・遊ぶスペースと分かれているが、利用人数の割には狭いと感じた。しかし、その分、人が多くなると、図書館に勉強しに流れる汎用性が高いと感じた。



図書館内部の様子

図書館は本棚が低く、開放的なスペースを確保しており、小会議室・談話室・読み聞かせ室・授乳室と多機能である。全体的には、子どもたちと地域が一体となって利用、イベント等を行う地域に根ざした複合施設として機能していると感じた。

産業福祉常任委員会道内行政視察報告

平成29年8月28日～30日 妹背牛町、池田町、足寄町

○参加者

村田委員長・渡邊副委員長・乃村委員・巴委員・佐藤委員・鹿中議長

介護保険事業における新しい総合事業への移行について
妹背牛町



わかち愛食堂
(旧Aコープ店舗跡)

妹背牛町は、住民主体の町づくりを展開する地域福祉実践計画を平成25年に策定し、「わかち愛もせうし」をスローガンに、住民の声を聞くアンケートを全世帯に実施し、回収率は92・28%に達しており、うち7割が「ここで幸せに生きたい」と回答した。

地域懇談会の中で出された「閉鎖予定の農協店舗を有効活用し、子どもから高齢者まで交流し集える場所が欲しい」との声から、町づくり人づくりを目的とした「NPO法人わかち愛もせうし」が設立、社会福祉協議会と連携し、住民交流スペース「わかち愛もせうしひろば」が誕生した。住民の声を聞くアンケートは、郵送ではなく個別、手渡

して実践、趣旨を説明、自治会長や選出委員が回収など、住民の身近な暮らしの中で地域の課題を考える取り組みが重要、「自分も関わった」と意識づけが現在につながっていると感じた。

社会福祉協議会における介護保険総合事業の取り組みについて
池田町

池田町は、平成19年から導入した介護予防プログラム「ふまねつと健康教室」、「脳トレ健康教室」を住民主体のサロンとして開催。社会参加活動を通じて介護予防、地域活動を実施し、支え合いのシステムを基盤強化して総合事業への結びつきを試みている。



ロココサロンの様子

介護予防事業、生活支援体制整備事業を社会福祉協議会に委託し行っている。人材の育成に取り組むことで住民に

助け合いの意識、ボランティアの概念が生まれ、ボランティアポイント事業の導入につながった。

新しい支え合いの地域づくりには、介護だけでなく、予防こそが元気な高齢者を増やすことにつながることで、予防が大事であり、それが、高齢者は多いが要介護認定が低い取り組みになっていると感じた。

木質バイオマスを活用した地域振興、木造庁舎建設について
足寄町



足寄町庁舎外観

足寄町では、森林資源を有効活用するため、平成13年に「足寄町地域新エネルギービジョン」、「足寄町木質バイオマス資源活用ビジョン」を策定し、平成17年に芽登地区に木質ペレット工場を建設。平成18年には町内産カラマツ集成材をふんだんに使った

役場庁舎を建設。熱源にペレットボイラーを使用することで、地域資源をエネルギー化し経済の活性化を図った。



自立支援カフェ(入口ホール)

庁舎内は入り口センターホールに、障がい者自立支援としてNPO法人が喫茶コーナーを運営。床下から伸びた4本のパッシブ換気システムは、カラマツの炭を敷き詰めたピットからのマイナスイオンの風を送風。また、隣接する消防庁舎と渡り廊下をつなげた先に大型のホールもあり、防災拠点としての機能も果たす。地元木材を使用し10年が経過した庁舎、先に建設した消防庁舎、町有地以外も取得し郊外の広い土地を求めた経過など、本町の「複合庁舎建設等まちなか再生基本計画」を再認識し、気候風土・メンテナンス等、総合的な判断が必要と感じた。

複合庁舎建設等調査特別委員会道外行政視察報告

平成29年8月22日～25日 岩手県紫波町、高知県梶原町

複合庁舎建設等調査特別委員会の道内行政視察については、平成29年11月発行の議会報166号で報告しましたが、今回は道外行政視察について報告します。

○参加者 佐藤委員長・高橋委員

オガールプロジェクトと紫波町庁舎

岩手県紫波町



紫波町庁舎

紫波町では平成10年にJR紫波中央駅誘致開業に伴い、駅前に10.7haの土地を公共施設整備及び宅地分譲用として購入した。しかし、その後、基金減等により計画が凍結、塩漬けの土地となる。

平成19年に前町長と民間建設会社の社長がリーダーシップを発揮し、公民連携の事業を模索し、平成21年2月に「紫波町公民連携計画」が策定された。町民の資産である凍結された町有地を活用して、財政負担を最小限に抑えながら公共施設整備と民間施設等立地による経済開発の複合開発を行うことになった。

オガールプロジェクトは、



オガールプラザ2階
子育て応援センター

フィットボールセンター、官民複合施設オガールプラザ、民間複合施設オガールベース、紫波町庁舎、オガールタウン（57区画の分譲地）、オガール保育園、官民複合施設オガールセンター、エネルギーソリューションによって構成。

オガールプラザは、テナント、図書館、交流スペース、レンタルルーム、マルシェ、事務所等で構成され、完成後、町は中央棟部分を購入し、区分所有による官民複合施設になっている。

民間複合施設オガールベースは、ビジネスホテル、日本初の本レーボール専用アリーナ、入居テナント（薬局、コンビニ等）などで構成。

庁舎設計は、町と親交のある建築家の隈研吾氏に依頼、森林の町であることから、地元産材の活用を図るべく、木材をふんだんに活用した設計となった。木材利用によるメリットは、経済効果、温かみのある空間、森林の町を象徴するシンボリックな建物といった。

「ゆすはら」は、外観は庁舎との統一感があり、茅葺の外壁が特徴的であった。簡易宿泊施設も兼ねているが宿泊のみで、食事はまちなかという意図があり、にぎわいの創出と言う意味では参考になった。



梶原町庁舎

複合庁舎建設に関して

高知県梶原町

梶原町は、国道440号線の道路拡幅に合わせ、住民組織の役員を中心とした「梶原町東区再生委員会」を設置し、中心市街地のまちづくり構想に取り組んだ。結果、役場新庁舎とJA事務所、高知銀行、商工会が合築されることになった。JA跡にはまちなかの高知銀行跡には民家、商工会跡には食べもの屋が建てられ、通りの空洞化は起こらなかった。

建設され、事業主体は紫波シティホール(株)という地元建設業者が合体した出資会社。木造3階建て木質チップボイラーによる冷暖房システムやトイレ洗浄水の雨水利用などが特徴的である。

常任委員会 特別委員会



相富木材加工(株)再建現場の現地視察



開基紀念之碑移設先の現地視察

総務文教常任委員会

第7回（11月6日）

- ・町内視察結果について
- ・議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について
- ・特別職の職員の給与に関する条例の一部改正について
- ・職員の給与に関する条例の一部改正について
- ・管理職員の特別勤務手当の創設について
- ・相生地区のサイレン吹鳴装置の整備について
- ・津別町開基紀念之碑について
- ・次期総合計画の策定について

第8回（12月5日）

- ・職員の給与に関する条例の一部改正について
- ・職員等の旅費に関する条例の一部改正について
- ・奨学金条例施行規則の改正について
- ・要保護・準要保護児童生徒の認定及び就学援助費の扶助に関する要綱の一部改正について

産業福祉常任委員会

第6回（11月6日）

- ・町内視察結果について
- ・丸玉産業森づくり基金条例の一部改正について

第7回（12月6日）

- ・農業集落排水施設設置及び管理に関する条例の廃止について
- ・下水道設置条例等の一部改正について
- ・下水道事業受益者分担金条例の一部改正について
- ・下水道事業特別会計条例の一部改正について
- ・水洗便所等改造資金の融資斡旋条例の一部改正について
- ・個別排水処理施設管理条例の一部改正について
- ・積雪による森林被害の対応について

議会運営委員会

第8回（11月24日）

- ・第7回津別町議会臨時会の運営について

- ・平成28年度各会計決算の認定について

第9回（12月14日）

- ・第8回津別町議会定例会の運営について
- ・意見書等の取り扱いについて

複合庁舎建設等調査特別委員会

第7回（10月18日）

- ・複合庁舎建設等まちなか再生について

第8回（11月10日）

- ・複合庁舎建設等まちなか再生について

議会広報特別委員会

第5回（11月27日）

- ・議会報167号の編集について

第6回（1月18日）

- ・議会報167号の編集について

～ 議会の録画配信を行っています～

インターネットを利用した定例会の録画配信を行っています。町のホームページにアクセスしてご覧ください。

<http://www.town.tsubetsu.hokkaido.jp/> から「議会インターネット中継」をクリック。

町長行政報告

報告された主な事項

第7回臨時議会（11月27日）

- 寄附 ■岐阜県立森林文化アカデミー校の視察
- 第3回全国木のまちサミットへの参加 ■阿寒摩周国立公園名称変更記念式典 ■津別病院名誉院長 近藤益夫氏の離町
- 第20回津別ウッドクラフト展 ■堆肥製造施設
- 火災 ■降雪による森林被害 ■北海道地域防災マスター認定研修会の開催 ■津別町老人クラブ連合会創立45周年記念祝賀会の開催 ■北海道地域住宅協議会表彰

第8回定例会（12月20日）

- まちづくり懇談会
- 農林水産大臣賞の受賞 ■「青年の主張」最優秀賞の受賞 ■第59回網走管内三地区対抗剣道大会、第35回網走管内段別選手権大会 ■複合庁舎建設に対する合築要望団体との意見交換 ■オホーツクイメーজ発信プロモーション事業 ■サッカーJ1リーグ川崎フロンターレ奈良竜樹選手の優勝報告